

## 子育て世帯における牛乳・乳製品の消費習慣と利用方法

—食卓での利用実態に注目して—

日本農業経営大学校 小野 史

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 山本 淳子

東京農業大学 大浦 裕二

### 1. 問題の所在と本研究の目的

本研究の目的は、子育て世帯における牛乳・乳製品の消費習慣と利用方法について、食卓での消費実態に注目して明らかにすることである。

牛乳・乳製品の消費習慣については、栄養学・公衆衛生学の分野において、カルシウム摂取や骨の健康に関する問題意識から、牛乳の飲用習慣と栄養状態についての調査と分析が蓄積されてきた。また、農業経済学の分野においても、特に近年、牛乳・乳製品の生産・流通にとどまらず、購買の実態についての研究もおこなわれている ([1][2]) が、購買した商品がどのような場面でどのような食品と組み合わせて消費されるのか、世帯内で誰が主に消費するのかなど、購買行動の背後にある食卓での利用実態に関する社会科学的アプローチはほとんどみられないのが現状である。

今後の牛乳・乳製品市場の展開を検討するためには、現在、どのような消費者がどのような意識でどのように牛乳・乳製品を消費しているのか、その食卓レベルでの実態を把握することが必要である。本研究では、これらの点について、子育て世帯の食行動記録調査によって明らかにすることを試みる。

### 2. データおよび分析方法

子育て世帯の食卓における牛乳・乳製品消費の実態を把握するため、(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センターが開発した

web システム「食行動記録システム」を用い、世帯の食行動に関するデータを収集した。本研究では、同一時刻に摂られた食事を1件として、各食事について、時刻、朝・昼・夕・弁当の別、食事場所、食卓を囲んだメンバー、食事内容(メニュー)、調理にかかった時間、メニュー選定の理由等を web 上の記録システムに書き込んでもらった。調査期間と調査対象者は表1の通りである。モニターの選定にあたっては、リサーチ会社ドゥ・ハウスに委託し、その際、調査対象者の就業

表1 食行動記録調査概要

調査期間：2013年3月9日(土)～3月22日(金)

調査対象：首都圏在住、調子高校生以下、既婚女性

	モ 番 号	家 族 人 数	(世 帯 1 年 収	本 人 年 齢	面 接 調 査	
専 業 主 婦	小 学 生 以 下 の み	1	3	3	39	
		2	3	3	41	
		3	4	2	35	○
		4	4	2	37	
		5	5	4	35	
	中 学 生 ・ 高 校 生 の み	6	3	5	40	
		7	4	5	44	
		8	4	5	44	
		9	4	4	47	○
		10	4	3	55	
パ ー ト タ イ ム	小 学 生 以 下 の み	11	3	3	37	
		12	3	4	40	
		13	4	3	37	
		14	4	3	38	○
	中 学 生 ・ 高 校 生 の み	15	3	3	44	
		16	4	5	45	○
		17	4	6	46	
フ ル タ イ ム	小 学 生 以 下 の み	18	3	4	41	
		19	4	5	35	
		20	4	5	36	
		21	6	5	38	○
	中 学 生 ・ 高 校 生 の み	22	3	4	50	○
		23	3	3	50	
		24	4	4	41	

(注1) 1,300万円以上500万円未満、2,500万円以上700万円未満、3,700万円以上1,000万円未満、4,1,000万円以上1,500万円未満、5,1,500万円以上2,000万円未満

状況および子どもの年齢層別に6つのセグメントを設定した。モニターに対しては事後アンケートを実施し、うち6人に対して調査終了後に1時間の面接調査をおこない、記録された食事の内容や普段の牛乳・乳製品の利用実態を聞き取った。

### 3. 子育て世帯の食卓における牛乳・乳製品消費の実態

食行動記録調査で収集した24世帯2週間の食事記録において、外食、社員食堂、給食等を除いた家庭での食事（作り置き料理、弁当含む）は総計912食であった。うち、牛乳・乳製品、それを用いた料理・食品が出現した食事は330食であった。これを料理数で見ると、総計3317品、牛乳・乳製品が使われたもの492品である。

牛乳・乳製品が出現する割合が高い料理はデザート、次いで飲み物である。朝食ではデザートの45.1%が牛乳・乳製品が使われたものであり、ヨーグルトがそのほとんどを占めている。飲み物では、牛乳および牛乳を入れたコーヒー（カフェオレ）が多い。朝と昼では飲み物の4割が牛乳・乳製品が使われたものだが、夕食では14%と少なくなる。

主食では8.6%が牛乳・乳製品を用いたものであり、特に朝食において13.4%を占める。これは主にチーズが入った市販のパン、あるいは自宅でチーズをのせたパン類である。

食事数全体で見ると、朝食の58.6%に牛乳・乳製品そのもの、あるいは牛乳・乳製品が使われた料理が出現しており、昼食では29.7%、夕食では15.4%と少なくなっている。各食形態における主食の種類に関係があると考えられるため、牛乳・乳製品が使われた料理が出る食事の主食の種類を分析した。朝、昼、夕食のいずれにおいても、主食がパン類の場合に牛乳・乳製品が使われた料理が出る割合が高い。さらに朝食では主食がパンの食事自体が多いため、朝食において牛乳・乳製品が使われた料理が出る場合が多い。子育て世帯の食卓においては、パン食の朝食において最も牛乳・乳製品が出現するといえる。

一方でご飯類が主食の場合でも、朝食では42.4%に牛乳・乳製品あるいはそれを使った料理が出ている。これは夕食での16.1%に比べてかなり多く、ヨーグルトやチーズ等の乳製品が、主食を問わず朝食時に食卓に並べるものとして位置付けられている面があると考えられる。

食行動記録調査における自由記述と事後の面接調査から、子育て世帯の食卓における牛乳・乳製品消費の実態と背景にある意識を考察すると、牛乳は健康意識から子どもに摂って欲しいと考えられており、粉チーズおよび加熱用チーズは広く調理に利用されている。その他のプロセスチーズは子どもが好きで便利という理由から購入されている。ヨーグルトを利用した料理はほぼみられないが、世帯の朝食においてしっかりと定着している事例が複数あり、その場合の主食はパンとは限らない。

### 4. まとめ

子育て世帯の食卓においては牛乳・乳製品が、品目ごとに特徴を持ちながら一定程度定着しているといえる。ただし、依然として一般的に洋風とされるメニューでの利用が多く、パン食との結合が強い面は残っている。一方で、牛丼にチーズをかけたり、ラーメンにバターを落としたり、ご飯が主食の食事に牛乳・乳製品やそれらを使った料理が並ぶなど、和洋の別では整理できない牛乳・乳製品の浸透がみられる。

#### 参考文献

- [1] 細野ひろみ・工藤春代・新山陽子「牛乳のおいしさと商品選択行動 - 店頭行動観察調査・IDB・質問紙調査・官能評価による包括的研究 -」『農業経営研究』、45(2)、2007、pp.153-158。
- [2] 氏家清和「飲用牛乳市場と消費の特徴」、永木正和・茂野隆一編著『消費行動とフードシステムの新展開』農林統計協会、2007、pp.29-54。

※本研究は、乳の社会文化ネットワークによる平成24年度の委託研究「世帯における牛乳・乳製品の消費習慣と利用方法—子育て世帯の食卓に注目して—」の一部である。